

職員にのぞむ

玉川喜代子

一心不乱にてんでが紙を切り、箱に穴をあけ、筆で塗ったり、糊つけをしたり、材料集めに歩いていたら、先生はいろいろな要求や質問に答えながら、せっせと鉄を動かしている。そうした三昧境、可愛い子ども鼻歌もきかれ、紙屑だらけのお部屋であっても、それは本当に貴い雰囲気である。

また陽のあたる園庭いっぱいあちこちのグループは段々ふえて先生がたも全部、方方のグループに入っている。レコードは流れて、ジングルベルや凧や火花など、皆みごとに胸をはって手足を動かしている。先生も園児も眼を細めて楽しそう。この有様をブランコをふりながらすべり台をすべりながら、お砂の山をくずしながらい、何となくニコニコして眺めているがそれはいつかりズム的な動きをしている。これは自由遊びの一コマながら、また無私の境地である。私は本当に子どもの中にはいて、園児と一体になって楽しんでる先生の姿に何か眼頭が熱くなって、ふと涙ぐむことさえある。またどうしてもあの先生の受持にさせて頂けないかと、おぼえず申し出る方が何人かある。陰日向なくよく子どもの面倒をみて下さるので、子どもがああ先生の組になりたいと入園前から理想をえがいていた

のだと言う。このようにして園児から、また保護者から、絶対の信頼を受けている先生がたを擁していることは本当に幼稚園としての強みだと思う。

すなわち園長の心を心として皆和協力日々を向上していくことだといつも話合っている。

お互い単なる母性愛に止らないで、子どもの成長発達をよく理解し、一人ひとりの価値を認め幼児の慾求をみたりしてやると共にみえない慾求をも引き出して善導すべきだ。それには幼児の個性を科学的に調査し診断し洞察して各個の保育に邁進したいと思う。

それにはお互いがよりよい人間として向上していききたい。映画観賞、音楽会またはよいラジオをきく、また立派な絵画や、劇を鑑賞すると共に絶えず新刊図書に注意し、良書をおさることだ。研究会講習会にはつとめて出席すること。

内的に自己を錬磨すると共に外貌においても、ほどよい身だしなみと端麗な容姿でありたい。耳飾や、濃いルージュ、絶えずパフを使用している時、本当に子どもの中にとびこめない。

健康で若鮎のようにピチピチしている。そしてよい性格の人であらねばならない。

私はいつも職員がたに話すことだが本当に子どもは自主性を尊びその個性を尊重し絶えず先生は一步下って、園長を中心に和衷協同協力一致、日に日に向上と研究の一步を進まれてほしいと考えている。

園長にのぞむこと

「園長にのぞむこと」幼児教育の実際場面にづく保育者の立場から、園長に望むことを便宜上三項目に大別し、更にそれを細記してみた。

一、園長の人柄その他に関して

- 1、すべての点で尊敬に値する人であること。
- 2、視野の広い豊かな人柄のもち主であること。
- 3、主義主張、信念をはっきり確実に持っていること。
- 4、立場を換えて物事を考える余裕のある人であること。
- 5、独裁者でなく、民主的であること。
- 6、新しい時代の流れ・変化・落着を洞察できる人であること。
- 7、幼稚園教育の本質、カリキュラムおよびその他実際面の事柄に精通していることが最も望ましいが、すくなくとも精通しようとする熱意があること。
- 8、幼児の家庭や地域社会へ働きかけ、幼稚園内外の融和に努めること。

二、保育者に関して

- 1、保育者に対して理解をもつこと。
 - 2、保育者としての人格を尊重すること
- (例えば園児の面前では、担任者の面